

2020年7月26日（日）メッセージアウトライン「モーセの従者から主のしもべへ」

聖書箇所：ヨシュア1：1～9

タイトル：「モーセの従者から主のしもべへ」

テーマ：出エジプトのリーダーとしてイスラエルの民を40年間荒野で導いたモーセは、約束の地カナンを目前にして死んだ。これまで、モーセの従者であったヨシュアが、カナンを征服するためのリーダーとして立てられた。

本日の聖書箇所は、ヨシュアが主からの召命を受けてリーダーとしての一步を踏み出す箇所である。「モーセの従者、ヌンの子ヨシュア」と呼ばれた人物が、ヨシュア記の最後の24章29節で「主のしもべ、ヌンの子ヨシュア」と記されるに至るまでの成長の秘訣が書かれている。現代を生きるクリスチャンにとっても霊的成長のヒント満載である。それを考えてみよう。

1. モーセ、死す

①「主のしもべ」モーセは、カナンの地を目前にして死んだ。モーセの生涯は主によって徹底的に導かれた生涯だった。

*赤ちゃんのとき殺される寸前で命を助けられ

*神の命令によりイスラエルをエジプトから脱出させるリーダーとされ、

*イスラエルの民を40年間荒野で導き、神の約束の地カナンを目前にしながらか、主の命によりモアブの地で死んだ（申命記34：5）

②ヌンの子ヨシュアが次のリーダーに

*「ヌンの子ヨシュアは知恵の例に満たされていた。モーセがかつて彼の上にその手を置いたからである。イスラエルの子らは彼に聞き従い、主がモーセに命じられたとおりに行った。」（申命記24：9c）

2. モーセの従者、ヌンの子ヨシュアとはどんな人物か？

◎彼の名前は出エジプト記、民数記、申命記に幾度となく登場する

*最初の登場：出エジプト17：8～14 アマレクとの戦いで勝利を収めた（戦士）

*出エジプト：24：13——モーセが神の山に登った時の従者として

*民数記13：8、16——名前が変わる ホセア（救い）→ヨシュア（主は救い、ギリシャ語でイエスース）

カナンの地の偵察隊（エフライム族の代表として）

*民数記14：6～9——12人の偵察隊の中で信仰による報告をしたエフネの子カレブとヌンの子ヨシュア（出エジプトを果した壮年男子の中でこの二人だけが、約束の地に入れるとの神の約束）民数記14：30

*申命記31：7，8，14，23 モーセからの権限移譲、神の約束

「強くあれ。雄々しくあれ。主がこの民の父祖たちに与えると誓われた地に、彼らとともに入るのはあなたであり、それを彼らに受け継がせるのもあなただ。」

*申命記34：9～ モーセの死、後継リーダーとしてヨシュアが立つ

3. 主のしもべとなるために

①ヨシュアはモーセに与えられた神の約束を引き継いだ（ヨシュアへの召命）

*約束の地の征服——「あなたがたが足の裏で踏む場所はことごとく、すでにあなたがたに与えている。」3節

*神の約束の地は、ダビデ、ソロモンの時代にもまた現在に至るまでも約束の領域には及んでいない。しかし、神の約束は必ず成就する時が来ることを信仰者は信じて前進。

*モーセの従者としてヨシュアは信仰者としての訓練を受けてきた。そのプロセスでヨシュアは、靈的にも人間的にもリーダーとして成長

②ヨシュアに対する主の命令

<使命の付与> 信仰が試される命令

*ヨルダン川を渡って神の約束した地に入り、そこをイスラエルの民に受け継がせる、これこそヨシュアの使命

<みおしえの書をあなたの口から離すな> 祝福の約束を伴う命令

*7節「わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれではならない。

*8節「このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分ですることで繁栄し、そのとき、あなたは栄えるからである。」

この命令は何を意味しているのだろうか。

<強くあれ、雄々しくあれ> 神がすべてを備えて下さった上での命令

*6, 7, 9節

この命令は、神がヨシュアのために備えて下さった恵みの内容を理解すれば納得できる。

4. 結論

①モーセの従者から主のしもべへ（ヨシュアの信仰者としての成長プロセス）

*モーセという指導者のあり方

②ヨシュアに与えられた命令（召命）、約束、祝福、励ましは私たちにも与えられている

*最後に、主のしもべ〇〇と呼ばれることを喜ぼう！